

2020年度 家庭総合 シラバス(3年生)理系クラス

概要	科目名	家庭総合	学年	3	履修単位	1
	目 標	家庭総合の授業では、自分らしい生き方、保育、高齢化社会、住生活、消費者生活などを学習します。家庭を取り巻く環境の変化に対応し、現在の生活や将来の生活を見つめ、各自の生活目標を持つこと。実践的・体験的な学習を通して生活に必要な知識や技術を習得し、各自の生活を工夫・応用していくことができるようになることを目標としています。 今年度では、保育、消費者生活、住生活などを中心に学習していきます。				

学期	項目	指導事項	時間	指導上の工夫・留意点	
1 学期	家庭総合を学ぶにあたって		1	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、生活の場で生きて働く力となるよう総合的に習得させる科目であることを理解させる。	
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動			ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義を理解させ、問題解決への主体的実践的な学習活動であることを理解させる。	
	2章次世代をはぐくむ 子どもの発達	次世代をはぐくむ		1	・次世代の子どもたちをすこやかに育てるごとの責任を自覚する
		命のはじまり		2	・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学ぶ。 ◎妊婦体験
		子どもの体の発育・発達		1	・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期であることを理解する。
		子どもの心の発達		1	・心の発達とともにさまざまな欲求があらわれること、子どもが欲求不満におもった場合には親の適切な対応が重要であることに気づく。
		子どもと遊び		2	・遊びは子どもの生活の大部分をしめており、遊びをとおして子どもの心身の発達や健康の保持・増進がなされていることを理解する。
	親の役割	子どもとのふれ合い		1	・保育所や幼稚園を訪れて乳幼児と直接にふれ合い、乳幼児期における子どもの心身の発達についての実情を知り、理解を深める。
		親と子の関係		1	・乳幼児期は、人間形成の基礎となる重要な時期であり、特に親とのかかわりによる「愛着」の形成は、その後の信頼関係づくりのうえで重要であることを理解する。
	子育て支援と福祉	乳幼児児の生活		1	・乳幼児の食生活・衣生活・住生活について理解を深める。
子育て支援と地域社会のかかわり			1	・家庭保育との比較のなかで、集団保育の意義や、現代社会における保育のあり方、特徴を理解する。	
2 学期	3章充実した生涯へ 高齢期を生きる	子どもの権利と福祉		1	・子どもの権利条約にもとづいて、子どもの権利や福祉についての理解をはかる。
		高齢期をどう生きるか		1	・高齢社会を迎え、私たちがどう高齢者の存在がかかわりの深いものになってきたこと、豊かな生活経験をもつ高齢者から学ぶことが多いことなどについて理解する。
		高齢期の生きがいと就労・社会参加		1	・高齢者の社会参加の一例として、地域活動や生きがい事業について考える。
	高齢社会を支え合う	高齢者を知る		3	・高齢者体験などをとおして高齢者の身体状況への理解を深め、「相手の立場や気持ちを思いやることは、自分を大切にすること」であるということについて理解する。 ◎高齢者疑似体験
		高齢社会の現状と課題		2	・日本の高齢化の現状について理解するとともに、将来の高齢社会のあり方を考えていく。
		高齢者やその家族の支援システム		1	・介護保険制度のねらいや運用方法について理解し、今後の課題についても考える。
	4章ともに生きる	高齢者の尊厳を支える		1	高齢者の自立を支援するうえでコミュニケーションの大切さを認識し、その基本的な方法について理解する。
		社会保障制度と福祉		1	・社会保障制度の必要性とそのしくみについて認識し、それぞれの範囲について理解する。
	第5章経済生活を営む 私たちの暮らしと経済	ともに生きる社会をめざして		1	・ノーマライゼーションの実現のためには、私たち自身がどう考え、取り組んでいけばよいかという実践的な態度を身につける。
		経済生活の中身を知る		1	・家庭経済と国民経済とのかかわりを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。 ・経済現象に対して、正確な知識や情報を収集し、主体的に判断し行動する態度を身につける。
家庭生活と社会のかかわりを知る			1	・家庭経済と国民経済とのかかわりを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。	
将来の経済生活を考える			1	・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。	
3 学期	消費者問題を考える	消費者問題はなぜ起こるのか		1	・大量生産・大量消費の時代に、商品の購入と消費をめぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。
		契約トラブルとその対策		2	・消費者被害の事例をとおして、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。・契約した後でも、考え直して解約できる方法があることを理解する。
		クレジット利用のリスク		2	・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。
		消費者の自立と行政の支援		1	・さまざまな消費者問題の発生のなかで、消費者の権利が制定されたが、消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。
	持続可能な社会をめざして	消費生活と環境問題		1	・現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響を及ぼしていることについて考えさせる。
私たちに何ができるのか			1	・環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。	
			35		

評価方法	①授業態度 ②定期考査 ③提出物 ④課題 以上を総合的に判断し、評価とする。			
評価規準	関心・意欲・態度 ◎授業中のプリントの記入や取り組み姿勢・態度から、家庭生活について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。 ◎実践的な態度を身につけている。	思考・判断 ◎授業中のプリントの記入内容や態度、定期考査の結果から、家庭生活について課題を見つけ、適切に判断し、解決方法を考え取り組んでいる。	技能・表現 ◎実習等を通して、基礎的・基本的な技術を身につけている。	知識・理解 ◎定期考査の結果を参考にし、家庭生活の意義や役割を理解し、家庭生活の向上に必要な基礎的・基本的な知識を身につけられたか。